

派遣先所属 宮城県東部地方振興事務所 水産漁港部  
氏 名 伊藤 弘文 (いとう ひろふみ)  
派遣期間 平成 29 年 4 月 2 日～平成 30 年 3 月 31 日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の東部地方振興事務所水産漁港部では主に石巻市や女川町などにある県営漁港を所管し、遠洋・沖合漁業の基地としても重要な特定第三種漁港の石巻漁港、第三種の女川漁港、渡波漁港及び避難港である鮎川漁港など 11 漁港を管理しています。

先の東日本大震災の震央地は、宮城県牡鹿半島の東南東約 130km の三陸沖です。

石巻市は震度 6 強で平野部の約 30%が浸水しており、全国の浸水面積のおよそ 13%を占めています。地盤沈下は最大沈降-120cm です（最近は少し隆起しているようです）。

東部地区管内も東日本大震災により漁港施設、海岸保全施設、漁船、養殖施設、水産加工場など壊滅的な被害を受けました。

担当業務は石巻市にある渡波漁港の漁港施設及び海岸保全施設の復旧工事であり宮城県職員と分担しています。

具体的には平成 28 年 3 月から工事に着手している長浜地区の漁港施設（護岸、物揚げ場、臨港道路等）と海岸保全施設（胸壁）の工事監督と設計変更等の業務及び梨木畑地区の陸閘、用地嵩上げ、市道の復旧工事等の設計及び工事監督です。

業務に当たっては、宮城県のプロパー方から様々な御指導を受けながら進めています。特に CAD については、今まで経験してきた機種と違うので、周りの若い職員の方から、その都度教わりながら図面を作成しています。また、石巻市役所への各種書類の申請や調整のほか、地元の 3 つの漁協や水際に新築された水産加工場などへの工事説明や工事への協力などのお願いを行っています。さらに、地元住民や地元企業から開示請求や行政資料の申請があり、各担当部所と調整しながら対応しています。

現在、この業務に従事して、千年に一度の大震災の爪痕の大きさに驚きを感じています。しながら震災から 6 年以上が経過し、復旧・復興は一步ずつ確実に前進しています。

今後は、今まで以上にスピード感をもって被災地の復旧・復興に当たっていきたいと思っています。



護岸・物揚げ場の復旧工事

## 2 被災地の復旧・復興の状況

外海からの津波対策として、海岸保全施設の防潮堤防や胸壁などのほか、漁港施設の栈橋や物揚げ場なども着々と復旧工事が進んでいます。しかし、宮城県の被災は面的な広がりがあり、被災が広範囲であることを痛感しています。

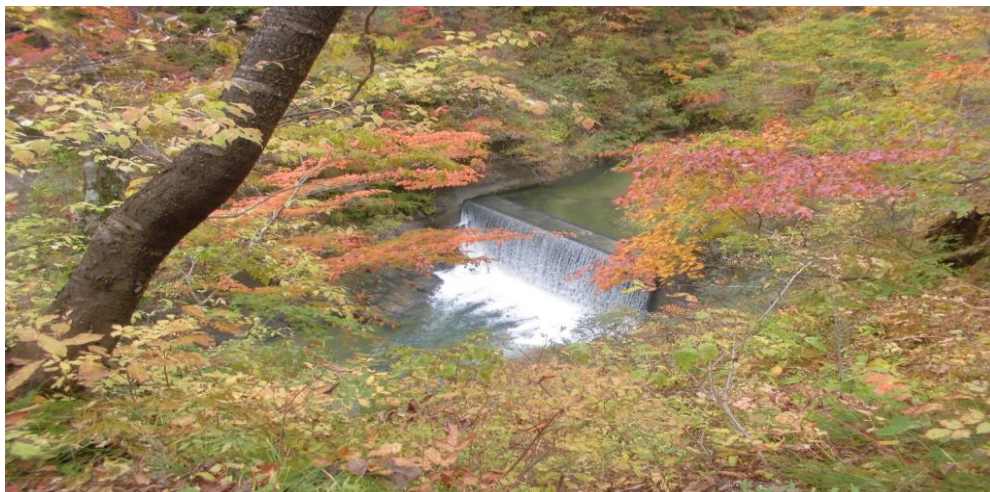
漁港内に新たに高度な衛生管理が可能な魚市場施設が完成し、水産加工場の稼働や養殖施設の整備などに伴って、漁師さんや水産関係者の往来が激しくなり、漁港には活気がみなぎってきています。この東部地域沿岸部では、ノリ、カキ、ホタテ、銀ザケ、ホヤやワカメなどの養殖が盛んに行われている地域で、アワビやウニなどの海の幸も豊富です。



石巻市のJR石巻駅前の様子で、リボンアートフェスティバルでは、大いににぎわいました。

## 3 被災地へ派遣となって感じたこと

宮城県に派遣となって、週末には温泉巡りをしています。岩手山の山麓や秋田駒ヶ岳の山麓や鳴子などのひなびた源泉掛け流しの宿を探して、日々の疲れを癒しております。東北には豊かな自然、良質の湯、それぞれ趣のある秘湯の温泉場が至る所にあります。心身をリフレッシュして、復旧・復興に全力で当たります。



鳴子峡の紅葉